

青少年委員だより

地域の力を再起動

第160号



私の目指す江戸川区の教育

江戸川区教育委員会

教育長 蓮沼千秋

区内7地区54名の青少年委員の皆様が、各地域において、健全育成活動にご尽力くださっていますことに、まずもって敬意と謝意を表したいと思います。

私も江戸川区でお世話になって14年目を迎えました。が、そのうち10年間中学校長として青少年委員の皆様を支えていただきました。

地域祭りや地区運動会、ドッジボール大会や凧揚げ大会、防災炊き出し訓練等の地域行事の運営や子どもたちの指導に関わっていただいたり、お忙しい中、入学式をはじめ卒業式・運動会等の学校行事、地区教育推進協議会や生徒の高校受験面接練習に出席いただいたりもしました。本当にどれだけ助けていただいたのか、計り知れません。

こうした本区の「地域の力」を最大限生かした教育活動をすべての学校で展開していきたいというのが教育長としての私の願いでもあります。目指す姿である「子どもたちが通いたい学校」「保護者が通わせたい学校」「地域が応援したい学校」「教職員が働きたい学校」づくりに、青少年委員の皆様のお力添えが欠かせませんので、今後とも変わらぬご支援の程どうぞよろしくお願い申し上げます。

地域での活動紹介

令和4年4月から9月までの活動を紹介します

夕涼み会



7月23日(土) 5時半より、閉校を迎える第二松江小学校で、最初で最後の「夕涼み会」が行われました。

コロナ禍でしたが、感染対策、人数制限など工夫し、中央地区部会のメンバーで「かき氷ソルトアートコーナー」を担当しました。

久方ぶりの子どもたちの楽しそうな笑顔に、ワクワク・ウキウキ！とても嬉しい思い出に残るイベントとなりました。コロナ禍でなければ、卒業生も来場できる「二松っ子まつり」が開催できましたが、本当に残念でした。

飲食がなくても楽しんでくれるようなゲームを考えたすくすくスタッフの皆さん、開催したPTA役員の皆さん、学校長をはじめ関係各位の皆さまに感謝申し上げます。

夜間パトロール・自転車盗ゼロ作戦



夏季夜間パトロール



自転車盗ゼロ作戦



区内各地区で、およそ3年ぶりに「夜間パトロール」や「自転車盗ゼロ作戦」が復活し、青少年委員も参加しました。

江戸川もっく



コロナ禍の令和3年に誕生した「江戸川もっく」注1の趣旨に賛同し、設立を後押しすると共に、毎月「もっくサロン」と称した親子を対象とする支援活動に力を発揮しています。

また特色として「木育」注2を取り入れ、子どもたちの無限の可能性を引き出すも、毎回その壮大さと奥深さに驚かされるばかりです。

活動ではブルージャージに揃いのオレンジエプロンを身にまとい、木工あそび、お絵描き、折り紙、紙芝居、学習のサポート、ボードゲーム、親同士の交流の場の設定やカウンセラーによる悩み相談等々、集まったボランティアの得意技で、孤



独になりがちな子育て世代の親子をサポートしています。

注1…「江戸川もっく」とは文部科学省が推奨する「家庭教育支援チーム」に申請・登録し、江戸川区に住む子育て中の保護者の皆さんや子どもたちの健全やかな育ちを支援しようとするボランティア団体

注2…「木育」とは林野庁が推奨する「木とふれあい、木に学び、木と生きる」取り組み

福島ひまわり里親プロジェクト

「福島ひまわり里親プロジェクト」とは、福島ひまわりを育てた後、種を回収し福島に送り返す取り組みです。送ったひまわりの種は、雇用促進、観光促進の絆づくり、車両の燃料となります。来年また咲かすためにも役立てます。今回江戸川区のSDGsの取り組みとして「鹿本小、鹿骨東小、新堀小、鎌田小、鹿骨中」の学校にお願いしました。

子どもたちが立派なひまわりの大輪を咲かせてくれました。青少年委員として今できる活動に取り組みました。



研究グループが立ち上がりました！

おもしろ工作研究グループ

地域活動イベント等、子どもたちに身近な物で手作りで遊び楽しむ、役に立てる物作りを研究しています。物作りと言う大切さを伝えたい。

未来を担う人づくり研究グループ

子どもたちの放課後や休日の安全安心な居場所の在り方を学びます。今期からは子ども会とのコラボの模索を始動しました。

子どもの文化体験研究グループ

子どもたちに、地域の誇れる伝統文化や自然、そして人と触れ合う機会をつくるために、「わが町たんけん隊」を実施しています。

わくわくレクリエーション研究グループ

目的に合わせたレクを習得し、実践したいとの思いから活動しています。まだまだ実践は厳しいのですが、実際にすぐ役に立つように、毎月の会議の中でも体験しながら習得中です。

SNSを使った情報発信研究グループ

SNSを使って迅速かつ広範囲に情報を周知することで、将来の青少年委員の発掘に繋がるように研究しています。

平和とSDGsを共に考える研究グループ

未来を担う子どもたちには、SDGsの取組みの大切さと、平和である事が必要だと知ってもらいたく活動しています。

7月定例会「江戸川区児童相談所・はあとポートの状況」



江戸川区児童相談所「はあとポート」は、新型コロナウイルスにより日本中の学校が一斉休校していた令和2年4月に開設しました。私たち青少年委員は、令和4年7月の定例会で上川所長のお話をうかがうことができました。以前私は、児童相談所とは非行に走る子どもを対象にした施設と勘違いしていました。数年前に、児童養護施設の子どもたちを描いた小説を読み、児童相談所とは子どもが正しく養育を受けることができるためのセーフティネットであることを理解しました。

保護者がいない場合や保護者が養育を正しくできていない時に、子どもを保護する場所として児童相談所が存在しているのです。

「はあとポート」では、子どもの浴室が共同ではなく個別にある作りをしています。これは、子ども一人一人の心を守るための処置で、全国から注目されています。

児童相談所にとって重要な情報は、近所の人から届くものが多いそうです。社会として子どもたちを守るためにも、私たちは児童相談所の機能を理解することが必要だと思います。

文責・小岩地区部会
中川 隆

9月定例会「ネットやスマホ利用に必要なリテラシーとリスクの最小化～主体的に自律的にデジタルを使う人へ」



9月の定例会研修において、違法・有害情報相談センターの石原友信センター長に「ネットやスマホ利用に必要なリテラシーとリスクの最小化」と題し、ご講演をいただきました。

講演では、ネットに使われる人ではなく、主体的に使う人になることの必要性をお話しいただきました。また、ネットだけではなく、AI、ロボット等により生活が進化する現代社会においては、「日常生活での倫理観や道徳観」「自分で考えて使いこなしていく力」を身に着けることが大切であると感じました。高度なリテラシーと適切で責任ある行動規範、主体性の獲得が最終的に求められるゴールになるとのことでした。

今回の講演を通して、子どもたちにおいても、ネットに触らせないという姿勢ではトラブルから守ることは難しく、自発的に自分で判断できるよう、大人も含めて勉強していくことの必要性を認識できました。

文責・東部地区部会
岩田 光輝

青少年委員とは



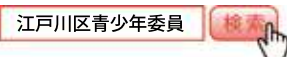
青少年委員とは、青少年育成地区委員会の推薦を受け、江戸川区長より委嘱を受けた非常勤公務員です。定数70名の委員が全区的な組織力を活かし、地域に根ざした青少年育成活動に取り組んでいます。青少年育成活動に関わることなど、お気軽にご連絡ください。

青少年委員だより
 発行 江戸川区青少年委員会
 編集 広報部
 連絡 江戸川区文化共育部
 健全育成課育成活動支援係
 ☎ 03(5662)0357

**江戸川区青少年委員
ホームページ**



こちらの二次元コードを読み込んでいただくか、「江戸川区青少年委員」で検索してください。



蓮沼教育長より温かな励ましを頂き感謝で一杯です。
 待ちに待った行事も感染防止対策を講じて、各地域で開催され始めました。
 今号では、トレードマークのブルージャージ姿で活動している様子をお届けすることができました。
 今後も上図で表した健全育成団体と協力・連携し、子どもたちの笑顔のために活動してまいります。
 広報部一同

あとがき